

参 考 資 料

資 源 調 査 委 員 會 の 現 状

准員 京 坂 元 宇*

我が國が資源豊富な國であるとは誰しも考へてゐないが、この資源で 8,000 萬の人間がたべてゆけるかゆけなしかは、我が國のみでなく外國にとつても大問題である。今まで資源を無駄に使つてゐたのではないかと疑問に對して、これを反駁するにはあまりにも資料がないかあつても非常に不完全である。川の流出を例にとつても、何十年かの平均であると氣象臺で自慢してゐる雨量分布圖を用ひて、之から流出率を算出しても百を越す所が相當多い。もともとアメリカの様に流出率が少なればかかる不備は暴露されないが、日本の様に流出率の多い所ではすぐ百を越すのでその不完全さが判明する。

只今のところかかる不完全な資料から資源量を算出するのであるが、その計算結果が將來も今の様な貧しいものを食ふたり着たりして暮さなければならぬと云ふことになるかもしれない。それが嫌ならば、どうしても産兒制限が必要だなどと非人道的なことを強調する様な妙な結果が出てくるのである。この様な非人道的なことを露骨に出さずに資源を完全に利用し、しかも完全に保全して人口を收容するにはどうしたらよいかと云ふ事を根本的に解決する一機關として資源委員會が發足したのである。

ところで資源を資源として發見し、之の最有効なる利用方法を案出するものは、科學であり技術である。勿論、資源開發は經濟的社會的に解決しなければならないものであるから、委員會では經濟的、社會的な面も重視してゐるが、特に科學、技術の面を重要視してゐるのである。例へば風なり地熱なりが眞に利用出来たら偉大なるプラスである。故にその委員も科學者、技術者が大半をしめてゐる。又會議と平行して設置された事務局—これは今までの委員會には見られない位大きなもので、スタッフが約 40 人ほどいる—にも科學者、技術者がその大半をしめ調査を擔當してゐる。

以上のことを官制では次の様にうたつてゐる。

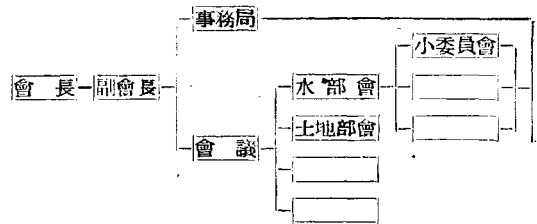
「資源委員會は經濟安定のための緊急な施策に關す

* 經濟安定本部官房調査課

る經濟計畫の樹立に必要な資源の有効且つ總合的な利用に關しての基礎資料を蒐集整理し調査審議しこれに基いて經濟安定本部總裁に對し必要な報告及び勸告を行ふものとする」

これを見てもわかる様に報告及び勸告をするのがその役目であつて、直接行政的な力をもつて居ない。政府内及び國民一般の強力なる啓蒙機關と見てよいであらう。又この委員會は米國の National Resources Committee を參考としたもので、委員會の各委員及び専門委員はその所屬の官廳なり團體の代表としてではなく、全然個人的な立場で参加すると云ふ立前である。現在の日本の状態では個人の資格なる意味を明確にすることが困難な場合が多いが、要は國家の危急を救ふために個人の能力を十二分に活用していただくこと云ふ意味である。

委員會の機構を圖示すれば次の様である。



(現在副會長は内田俊一氏、事務局長は安藝俊一氏である)

以下各部會の活動を簡単に説明して見よう。

水部會では水文學的な基礎資料を整備周知させることを目的として第一小委員會をおき、これを更に雨量、流量、蒸發滲透量の三つの項目に分けた。雨量については今まで非常に多く資料がとられしかもよく整理されてゐるが、これがどの様な精度であるか再検討して見ようと云ふので、主として中央氣象臺にこの仕事を擔當していただいてゐる。そして山地に於ける雨量の精度・森林に於けるもの・又測定器具の高さがどの様な影響を與へるか、これらの事を今まで研究されたものを基礎として再認識せんとするものである。又人が

るて一日毎に紙を取換へなくても雨量をとつくれるロボット雨量計が、極く山の中でしかも観測上重要な所には必要になるであらう。この方面の研究についても考へてゐるものである。流量については本間先生のもとで内務省、商工省で公刊された流量資料をもととしてこれがどの位の精度のものかを検討して見た。上流と下流の流量を較べて見て上流が下流よりも流量が小なければ常態であるが、これを一つ一つチェックして見るとかなり亂れてゐるものが發見された。之を分析して見て、精密法に於ても一割の誤差、更に流量曲線からの測定はそれ以上の誤差が出てくることは否めないと云ふ結論を得た。水の循環に於て最も不明とされてゐる蒸發量・滲透量については今まで散在してゐる資料が如何なるものであるかを、各専門委員をわづらはして解説書をかいていただいてゐる。この面の研究はあまりに局所的であり、問題が複雑であるため、なほざりにされてゐた感がある。水蒸氣の交換現象からこれを解明する研究も擔當していただいてゐる。以上の三つを結合するとつまる所流出率の問題が重要性をもつて来る。これをいかに處理するかは次にとり上げるべき問題となつてゐる。

第二小委員会は具體的な問題を水系毎にとり上げんとして、先づ利根川をとり上げ資源の保全と云ふ意味で洪水豫報をブッシュした。これは氣象臺・關東地建で行はんとしてみたものであるが、より強力にこれを推進し、當事者達をして充分理想に近い組織をつくつて各官廳・民間が夫々資料を提供し又その豫報を利用し且新鮮なる資料を蒐集出来る様にするがため資源委員會がこれに關する勧告を政府に提出した。これの詳細は土木ニュースを参照されたい。全國各地に於いてこの洪水豫報によつて出来るだけ洪水被害を少なくしようとする氣運が熱して來た。これらの組織をより強力にするためには一臂の助力をおしまないつもりである。近く北上川・最上川についてもこの組織が發足するであらう。

この他水としては洪水實態調査・水計量について夫土地部會・計量部會と協同して行つてゐる。又近時海岸の決渇及び漂砂の問題をもとり上げ、これの原因・對策についてはつきりした結論を出さんとしてゐる。

土地部會に於ける仕事は大體二つに大別出来る。即ち現在までの資料について討論することにより一つの結論を得られるものと、他の一つは新たに實態調査をサンプル的に行つて、それによつて一つの結論を得ようとしてゐるものである。前者に於けるものは航空寫眞の利用限度の問題がさうであつて、これは航空寫眞が科學的に又技術的に利用するためにどの位その地

形・地理の分析が可能であるかを、作成する側と利用する側との意見の交換によつて、航空寫眞利用の指南書をつくらんとしてゐる。この他土地で行つてゐることは、現在の耕地や林地の地積やその開發方策についてはつきりした分類なり土地利用圖なりを作成する仕事である。又洪水の被害の實態調査を宮城縣・岩手縣の最も被害の大であつたと云はれる、追川・遠ヶ石川の流域について東大の秋葉先生を團長とした調査團が調査におもむき山地・河川の自然條件更に社會的・經濟的條件についてこれを分析しその報告書を作成中である。この報告を基礎として水害について國家はいかに考慮すべきかについて委員會が審議せんとしてゐる。

エネルギー部會は日本のエネルギーバランスをつきとめて、これに沿つた方向に種々なる開發問題を處理せんとして資料をとりまとめてゐる。先づこのバランスの検討の結果、水力發電と炭坑開發の問題が浮かび上つてくる。しかし先づ最も大切であるとしてとり上げたのは鐵道電化の問題である。石炭で汽車を動かすよりも電氣で走らせた方が、スマートで經濟的であることは大方が認めてゐるが、實際は鐵道のメンテナンス等のことで現在これを大々的に國策にとり込むまでに行かない理由がある様であるが當委員會は多くの資料に基づき、國家百年の計として電化問題をブッシュせんとしてゐる。又他の一面に於ては家庭燃料の問題をとらへて山を坊主にせず又みんなの住宅となる木を燃やさないで、どれだけ炭や薪を使用し得るかは、生活様式等によるので現在調査票を配つて調査中である。

以上の他に地下資源・衛生(排泄物利用)・防災(地球物理學的智識の應用)・計量(資源利用計量)の各部會が現在夫々の仕事を分擔して行つてゐる。これらの詳細は後の機會にゆづることとして現在までの資源委員會發行の主なる資料を參考までに載せておこう。

1. 國家政策と科學研究
2. 工業研究機關の組織について
3. 國土の有効利用開發並に保全に關する一考察
4. 英國都市地方計畫省の機能
5. 公共事業の意義
6. 英國の住宅問題
7. アメリカ合衆國のエネルギーと生産とマンパワー
8. 英國の建設工業の問題
9. 英國の都市計畫
10. 水文學研究上の缺陷
11. 公共事業の歴史的考察
12. 日本資源と米國の政策
13. アイオン颶風に關する資料

(利根川洪水豫報組織に對する第1回報告)

エネルギーデータブック第1號

勧告第1號「利根川洪水豫報組織」(以上)